



伊那ロータリークラブ



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 藤澤洋二 幹事 小松献臣 会報委員長 城取健太 第2931回例会 2021.4.15 No.1591



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21 年度 RI テーマ

Rotary Opens Opportunities

ソング 我等の生業

ビジター・ゲスト紹介

駒ヶ根ロータリークラブ会長 春日俊也 様

会長談話 藤澤洋二会長

今月4月は母子と健康月間であり、今日は母子と健康月間にちなんで、ネパールと深い交流を続けておられる駒ヶ根ロータリークラブ様へ卓話をお願い致しました。



駒ヶ根市は、長年にわたって、ネパールのポカラ市やトカルパ村で、識字教室、職業訓練などの支援や、安全な分娩や産前産後ケアの普及などの母子保健改善事業を行っておられます。

その駒ヶ根市の中でも、駒ヶ根ロータリークラブは、ネパールとの交流に大きな役割を果たしてこられました。

駒ヶ根ロータリークラブは、2015年のネパール震災により壊滅的な被害を受けたトカルパ村に対して、上伊那グループの4クラブに呼び掛けて、ロータリー財団地区補助金を活用して、学校施設の復旧支援をされました。

今回、当時の財団地区補助金報告書を読み、伊那クラブも駒ヶ根クラブとご一緒に、この事業に参加し、ネパールの復興に少しでもお役に立てたことは、本当に良かったと感じました。

後ほど、駒ヶ根ロータリークラブの春日会長には、駒ヶ根とネパールの絆と題して卓話をさせていただきます。春日会長、よろしくお願ひ致します。

また、春日会長は、駒ヶ根の創業120年になる老舗の、食品、業務用食材その他セメントまで幅広く取り扱う伊勢喜の社長であります。プライベートでは、市民オーケストラの伊那フィルで指揮者として活躍されておられます。

幹事報告 別紙をご覧ください。

クラブフォーラム 「母子と健康月間」

卓話 駒ヶ根ロータリークラブ会長 春日俊也 様
 演題「駒ヶ根とネパールの絆」



駒ヶ根市は、1992年頃からネパールとの結びつきがはじまり本格化してきました。それはどういうことかという、小さな国際貢献運動という活動があり、現地にいる協力隊員の活動を物心両面から支援するというプロジェクトです。そこで半田好男さんを支援しようと始まったのがネパールとのご縁の始まりです。

それから、色々な形で市に広まっていき、中学生を現地に派遣して研修をしてもらったり、市民同士の交流が始まりました。現在では、ネパールのトカルパ村とポカラ市の二つの拠点で交流活動を行っています。ポカラ市とは国際協力友好都市という位置づけで交流を続けています。

まず、半田好男さんとはどういう方かという、栃木県出身の高校の理科の先生です。

この方が協力隊に入隊して、トカルパ村を中心とした一帯の仕事をするべく派遣されました。

半田さんは理科の先生なので現地に行き理科を教えることが本来の使命ですが、現地に行くとそれ以前に差し迫った援助を求めていく分野が色々あるということに気が付きます。海外協力隊の制度上、理数科の教育には予算を使って良いのですが、それ以外では予算を使うことができません。そこで「駒ヶ根の皆さん何とか支援をしてくれないか」と提案をもらいました。そこで駒ヶ根では小さな国際貢献運動ということ始めて、協力隊員が本来の任務ではないけれども、重要で優先度の高い任務を応援しようとしたのが、半田さんとの繋がりです。

駒ヶ根では、NPOのトカルパの光をつくり活動をしています。半田さんはこのころからトカルパを訪れて、そして現地に協力者をしっかり設けて、半田さん

自身が現地にいなくても色々な活動ができるような仕組みを作るところまでできています。最初何を始めたかというところ、識字教室を行いました。私も1997年11月にトカルパの光でスタディツアーを企画して現地を見て参りました。現地は、土地の大半は急斜面なのですが、山腹にぎっしり棚田や段々畑を作って農業を中心とした生活を営んでいました。当時電気は、裕福な家庭にはきていました。水道はありません。水は外から汲んできていました。家畜の餌となる草刈りも重労働であり、とても過酷な状況でした。ネパールの学校は10年制ですが、学年が上がっていくと、「勉強をやっている場合ではない、家の手伝いをしなさい」と言われ、年齢が上がるとともに学校に通う子供の数が減っていき、10年生まで通う子供は僅かでした。特に女性、カーストの低い人たちは文字を知らない、読み書きができない人が多いです。そのため色々な不利益を被る場面が沢山ありました。そこで、まずは字を覚えてもらおうということで、識字教室を始めました。その識字教室には、人々が昼間の仕事を終え夜暗くなってからいくつもの山を越えて集まってきます。その時の松明を持って教室に集まってくる光の様子が大変感動的かつ印象的であったということで、駒ヶ根の名前を「トカルパの光」にしようということになりました。今でも、識字教室だけではなく、彼らが自分の生活のために使える編み物や裁縫、養蜂の技術を教え販売収入面で活用する他、現地の障害者の支援を行っています。

また、2015年ネパールを襲った大地震は今も復旧・復興が続いています。当時、何とか彼らを支援したいということで、補助金の活用や寄付を募ったりした結果、377万円という大きな金額を支援として使うことができました。具体的な支援としては、村の学校施設の再建や人的支援に使わせていただきました。その節は大変お世話になりました、改めて感謝申し上げます。

トカルパ村は日本からのアクセスが大変きつということ、他に別の拠点を探していたところ、ネパール側から、駒ヶ根によく似た風景、街であるとしてポカラ市を紹介いただきました。ポカラ市はネパールでは第2の都市で人口は約50万人です。当時、中原市長はじめ大勢の訪問団で訪れ現地を見る中で、母子保健のことにする支援へ着目したというのが、きっかけであります。2001年には国際協力友好都市協定を締結、2008年に母子保健プロジェクトをはじめ、救急

車・医療機器を寄贈しました。

こちらから向こうへ行く活動、向こうからこちらに呼ぶ活動は、友好に大変必要な要素であると思っています。例えば、医療、出産、保険に関わる専門化は向こうからも受け入れて、駒ヶ根の病院や看護大学から卒業する人たちとの交流、あるいはこちらのスタッフが現地に行き行う技術指導などです。人と人が行きかう中で、お互いに得られるものが非常に多いと思っています。そもそも、海外の発展途上国を支援することは、日本の中でも「お金があって余裕がある人達がやるんだ」というイメージがありますが、先方の方々をお呼びして、子供からお年寄りまで色々な人達と交流することが大切であると思っています。今はIT環境が発達していますので、実際に互いに行き来しなくても意見交換等ができ活動がしやすくなりました。

民際交流とは、そこに住む民間人同士が直接相手の顔を見ながら交流することを言います。駒ヶ根においては、高齢者の人が、飾りものを作って送ったり、赤ちゃん用の毛糸の帽子を作って送ったりしています。また、手紙に簡単な塗り絵を添えて送ることもしています。そうした支援を通じて私達が学ぶことや、その他返ってくるものが沢山あると思っています。また、中学生をネパールに派遣して研修させることもかなり前からやっています。実際に行った中学生からは、現地を見て自分達にできる色々な支援活動のアイデアが出されています。そして、その支援の品などを次の中学生が現地で手渡し、現地の人達の反応を確認しています。とにかく、母子健康を改善するというのは、1年、2年でできることではなく時間がかかることですので、息が長い持続可能な活動が必要です。

出席報告 会員数54名 内出席免除15名

出席者29名 事前ミーティング1名 出席率63.83%

ニコニコボックス

藤澤洋二・小松献臣 駒ヶ根RC会長春日様、ようこそ伊那RCへ、こころより歓迎致します。山田 益 駒ヶ根RC会長春日様、ようこそ伊那RCへ塚越 寛 いろいろなマスコミで私の事が紹介されました。

立石 誠 ①震災後、福島に植樹したコヒガンザクラが満開になりました。

②内孫が小学校に入学しました。

在籍祝 唐木 章・小河節郎